

スズカンアフガン支援募金に立つ



救援予算渋るならば募金を

民主党の鳩山由紀夫代表らが1日、東京都内の繁華街でアフガン難民の救援募金を呼びかけた。写真：鳩山氏は難民の窮状や日本の貢献を訴える一方、「本来、国会ですっかり予算をつけて回せば多くの人の命が救われる。しかし、必ずしも政府・与党はそのような考えを持っていない」と協力を要請。菅直人幹事長や羽田孜特別代表も同僚議員と募金箱を持って並んだ。

鳩山代表らと募金箱を持ち、募金を呼びかける鈴木寛（11月2日朝日新聞）

きで報じられた。この日、実に夕方一時以上街頭に立ち、鈴木寛は募金を呼びかける演説や、自ら募金箱を持ってビラを配りながら、道行く人に協力を呼びかけた。思わず漏れた言葉は、「選挙を手伝ってくれた皆の気持ちで分かる」募金活動は、その後も週末等を中心に数回に渡って行われた。

（一面より続き）国連関係では、元ユニセフ職員の前上和雄衆議院議員や、アナウンサーの井上雄二衆議院議員、深い藤田幸久前衆議院議員、そして米政府について言えば、民主党東京第二十一区総支部長の長島昭久さんは、アメリカの外交委員会の元上席研究員で、アーミテージ国務次官や、マイケル・グリーン国家安全保障委員会アジア太平洋担当部長などともに仕事をされておられ、共和党内にめっぽう強く、また、大谷信盛衆議院議員も米国民民主党に大変に太いパイプをもっておられます。また、このほかに、国内では制服組や官庁・在外大使館など、有力な情報源をもった議員は本場に多く国会期間中も手分けして、実に多くの在京大使のみなさんと意見交換の場を持ちました。

ですから、相当程度の確かな情報収集のもとで、①日本のみなさんの生命と財産を守る、②米国の関係を大切にしながらも決して米国の一辺倒ではなく多くの国々との友好協力関係を維持・強化する、というこの二つの観点から確かな判断を下すことができたと思自負しておりますし、そのことはいずれ歴史が明らかにすると思います。当初、鳩山代表がぶれているのでは？との報道がなされました。そうした報道のたびに感じましたのは、国際情勢は時々刻々変化しますから、その変化にも即時に対応してより確かな判断をしているのであって大方針は一貫しているのにと、マスコミの報道に対して臍をかねておりましたが、このような重要な機密を前提にした判断についてこのこちらの真意を伝えることの難しさも併せて痛感させられました。

私は、民主党がこのたび設置したテロ対策・アフガン支援本部も総合調整担当ということにもなりました。民主党は、現地視察しすぐ帰ってきてしまう他党と違って、パキスタンに現地事務所を十一月初頭に立ち上げました。このときにも、第一陣で派遣された首藤議員、榛葉議員が大活躍で、タリバンに囚われていた日本人ジャーナリスト柳田大元氏の引き渡しをタリバンのザイーフ大使に掛け合いました。今は、民主党議員が常駐し、民主党議員が毎週交代で現地に赴き、常時現地の情報を収集し、我々の政策判断に生かすとともに、現地NGOの支援をしています。また、日本では、現地報告にもとづきアフガン支援募金などを全国各地で開始いたしました。

代表室におりますと、実に、案件が立て続けにやってきます。テロ問題の直後に狂牛病問題が発生いたしました。またテロ特別措置法の採決が終わったかと思うと、景気・雇用対策のための補正予算や選挙制度見直し、道路公団などの特殊法人改革問題、医療制度改革問題、そして、再びテロ特別措置法に基づく自衛隊派遣の承認・PKO法改正問題とひっきりなしに重要案件が続きました。いずれも、安全保障、民主主義体制、予算構造・制度、社会保障制度などの基本原則をめぐる議論でありました。そうした議論の推移をつぶさにみることで、きんに勉強になりましたが、と同時に、今日本がありとあらゆる分野で二十世紀なるものを今抜本的に変革しなければならぬ時期にまさに来ているのだということを肌身に実感させられ、そうした時期に国会に身を置くことの責任を痛感する毎日でもあります。

たとえば、民主党は党首討論や、我が同僚の松井参議院議員の本会議質問などで、自民党政権における与党事前審査の問題をとりあげ、マスコミ各社もそれを支援していただきました。与党事前審査つまり、与党自民党が法案・予算案・税制改正案など国会に提出する際には、かならず、自民党の部会・調査会で十分議論し、総務会で最終判断をしなければ閣議決定して政府案として提出できないという慣例ができています。無駄な高速道路は作るのをやめようとかいう構造改革は、当然に既得権をもつ道路族の議員たちの猛反発をくらいます。部会は既得権をもつ議員たちで構成されていますから、多くの改革案は部会で、もみ消し・握りつぶし・先送り・骨抜き・捻じ曲げられてしまうという政策決定過程上の構造問題が重大なものです。ですから折角、政府の経済財政諮問会議などで、経済界・学界などの有識者を集めて改革の知恵を出していただいても、結局は、自民党の部会からの圧力がかかり当初の案が骨抜きにされてしまいます。道路特定財源見直し、道路建設見直しなどの改

革案が結局この年末大詰めにきて、すべて反故にされてしまったのも、この与党事前審査制があるからなのです。こうした慣例を見直さない限り、結局族議員の巣窟である部会・調査会の決定に縛られてしまつて、いくら総理大臣が改革の意欲をもつていたとしても政府の成案に、ならないというわけです。私は、今後ともこの政策形成過程の構造改革を強く主張しつづけていきたいと思っています。